

アルミ缶 リサイクル ニュース

July
7
2020

Vol. 152

CAN
to
CAN



アルミ缶リサイクル協会
Japan Aluminum Can Recycling Association

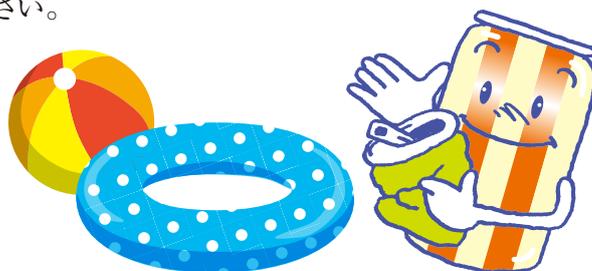
東京都豊島区南大塚1-2-12 日個連会館2階
Tel.03-6228-7764 Fax.03-6228-7769 〒170-0005
<http://www.alumi-can.or.jp>

第219回理事会・第48回定時総会開催 2020年度事業活動計画等承認される



第219回理事会・第48回定時総会の様子

当協会は、6月19日(金)に第219回理事会及び第48回定時総会を開催し、2020年度の事業計画、収支予算等が承認されました。今年度の事業活動計画については2ページをご参照下さい。



2019年(令和元年)度 飲料用アルミ缶のリサイクル率(再生利用率)を発表

リサイクル率97.9%

当協会は、6月19日(金)に記者会見を行い、2019年(令和元年)度の飲料用アルミ缶のリサイクル率(再生利用量)とCAN to CAN率(国内で再生されたアルミ缶のうち、缶材へ利用された割合)を発表しました。

当日は約20名のアルミ業界関係、環境関係の報道関係者の皆様にお集まり頂き、田代理事長、内藤副理事長、吉澤企画委員長、事務局から以下の説明を致しました。

2019年度のリサイクル率は、昨年度より4.3ポイント向上し97.9%と目標の90%以上が維持されました。一方CAN to CAN率は66.9%(前年度71.4%)と昨年を4.1ポイント下回りました。但し、2019年度も約9.8万トンの



記者発表風景(左)吉澤企画委員長(中央)田代理事長(右)内藤副理事長

(前年度約8.0万トンの)UBCが輸出(主に韓国)されており、これは正味アルミ缶重量の割合を考慮しても国内消費量の26%に相当します。

※2019年度リサイクル率についてホームページに補足説明を載せましたので、併せて御覧下さい。



リサイクル率

※1 再生利用重量(323,600ト) ÷ 国内消費重量(330,418ト) = **97.9%**
(2018年度93.6%)
※1 輸出分含む



CAN to CAN 率

缶材向け重量(158,333ト) ÷ 国内再生利用重量(236,745ト) = **66.9%**
(2018年度71.4%)





2020年度 アルミ缶リサイクル協会 事業活動計画



1. 概要

2019年の飲料用アルミ缶の国内需要量は前年比100.3%の約217億缶と推定され、6年連続で200億缶の大体は維持されました。国内ビール系の全体需要が15年連続前年割れとなった影響でビール系缶需要が減少し、また清涼飲料も7月の記録的な天候不順の影響で全体需要が前年比99.3%と5年振りに前年割れとなり、アルミ缶需要も減少しました。しかし、RTD向けが5年連続で二桁増(112%)となったことで、国内での総需要量は微増で着地しました。尚、海洋プラスチック問題から、清涼飲料分野で容器をアルミ缶やボトル缶に切り替える動きも僅かに窺えるため、今後の動向をフォローしていきます。

2019年度のリサイクル活動は集団回収等で堅調な活動が行われ、またUBCの輸出が急増したこともあり、リサイクル率は前年比4.3ポイント向上の97.9%と大きく伸び、目標の90%以上が5年連続達成できました。

2019年の1缶当たりの平均重量は0.01g削減の16.10gとなり、2020年に2004年比で5.5%の軽量化目標に対し5.4%とあと一步のところとなりました。アルミ缶は食品容器として、漏洩に繋がる安易な軽量化は許されず慎重に取り組むことが必須ですが、2019年はビール缶等で軽量化は進められており、引き続き関係者が一丸となって取り組み、目標最終年である今年に何とか5.5%の軽量化を達成し、環境負荷の低減が図られることを期待したいと考えます。

UBCについては、組成率を考慮しても前年比1.7万トンの増加の約8.7万トンのUBCが輸出されており、国内消費量の26%強ものUBCが輸出されている実態は、国内資源循環の観点からは憂慮すべき事態と言えます。また、輸出国としてはタイ向けが急増しており、この動向についても引き続き注視する必要があります。

2. 基本方針

(1) アルミ缶リサイクルの推進を円滑に進めます

- (1) アルミ缶回収ルート of 整備・支援を行います
- (2) 広報・啓発活動を行います
- (3) 調査・情報提供活動を行います
- (4) 協会企画委員会、ワーキンググループ(WG)の活動を行います

(2) 3R推進団体連絡会の一員として積極的に3R活動に取り組みます

<目標>

- (1) 安定的にリサイクル率90%以上を維持します
- (2) 2020年までに2004年比で5.5%の軽量化を目指します
- (3) アルミ缶回収協力者推薦数を学校・一般で各10件以上増やします

実績推移

1) リサイクル率とリデュース率

	2020年目標	2018年	2019年	対前年増減
リサイクル率	90%以上	93.6%	97.9%	4.3%
リデュース率	5.5%以上	5.3%	5.4%	0.1%
	16.08g以下	16.11g	16.10g	△0.01g

3. 2020年度 事業活動計画の内容

(1) アルミ缶リサイクルの推進を円滑に進めます

(1) アルミ缶回収ルート of 整備・支援

事業者責任としてアルミ缶回収率を上げるために関係者との連携、協働の推進を引き続き行います。

- ① 当協会プレゼンス向上を目的に官庁や関連団体への訪問・支援、自治体、消費者団体との交流を積極的に行います。
 - ・ 官庁(経産省金属課)の定期会合への参加・訪問、情報提供を行います。
 - ・ 全国自治体の開催する環境イベントや消費者団体主催のイベント等へ積極参加し、ノベルティーや資料の提供を通じて協会の認知度向上と交流機会の増加を図ります。
 - ・ リデュース・リユース・リサイクル推進協議会主催の「3R推進功労者等表彰」の候補者推薦を継続して行います。

② アルミ缶回収表彰制度の認知度向上

- ・ 「アルミ缶小・中学校回収協力者表彰」、「アルミ缶一般回収協力者表彰」、及び「優秀回収拠点表彰」制度の認知度向上を目的に、学校・自治体、回収拠点、社会福祉協議会等への表彰制度PRを継続します。
- ・ 都道府県別の登録回収拠点の中身を見直し、アルミ缶回収協力者表彰への推薦が出やすい環境を整備します。

(2) 広報・啓発活動の推進

① 若年層への環境教育としての広報・啓発活動

- ・ 環境教育への協力、支援として小中学校向けにパンフレット/小冊子、DVD、ポスター等の配布、再生地金サンプル等の教材を貸し出します。
- ・ 中学生の修学旅行時等の来協学習を受け入れます。

② 自治体・消費者への広報・啓発活動

- ・ 自治体や各消費者団体主催の展示会、自治体講演会への参加、各種書籍・雑誌への寄稿等を行います。
- ・ エコプロ2020展示会へ参加します。
- ・ タブ回収の活動については引き続き正確な情報提供を行います。(歴史的な経緯と怪我の危険性について)
- ・ ホームページにタイムリーな情報提供を行うと共に、協会やアルミ缶回収のPRを行います。

③ マスコミ関係者や支援団体への広報・啓発活動

- ・ 定期的に報道発表を実施します。(6月:単年度事業計画とアルミ缶需要量、リサイクル率、リデュース率)
- ・ リサイクル施設の研修見学会を実施します。(10月)
- ・ 広報紙「リサイクルニュース」(4回/年発行)を発行、配付します。

2) アルミ缶回収表彰(優秀賞件数)

	2017年	2018年	2019年	2020年予測
小・中学校	62件	54件	51件	56件
一般	64件	63件	59件	64件

*2020年は、学校と一般で各10件の推薦増を目標としており、この内の半分が優秀賞となると見込む。

(3) 調査・情報提供活動の推進

- 2019年度「アルミ缶リサイクル率」(「CAN to CAN率」含む)、2019年度「アルミ缶リデュース率」、2018年度「アルミ缶再生利用フロー」を調査・公表します。
- 日本アルミニウム協会等と連携し、タイムリーな調査分析・情報発信に努めます。
- アルミ缶輸出入数量、及び世界のリサイクル率について、データ精度を高めます。

(4) 当協会企画委員会、ワーキンググループ(WG)活動の推進

- 当協会が当面する課題や対応を企画委員会と各WGで対応していきます。特にリサイクルフロー調査WG、3R推進WG、広報WGは継続し、リサイクル率向上のための施策、自主行動計画のフォローアップ、効率的・効果的な広報活動の推進に取り組みます。

(2) 3R推進団体連絡会メンバーとしての活動

「自主行動計画2020」に引き続き取り組みます。

(1) 事業者自ら実践する3R推進計画の推進

- リデュース、リサイクル目標達成に向けて取り組みます。

(2) 普及・啓発活動の推進

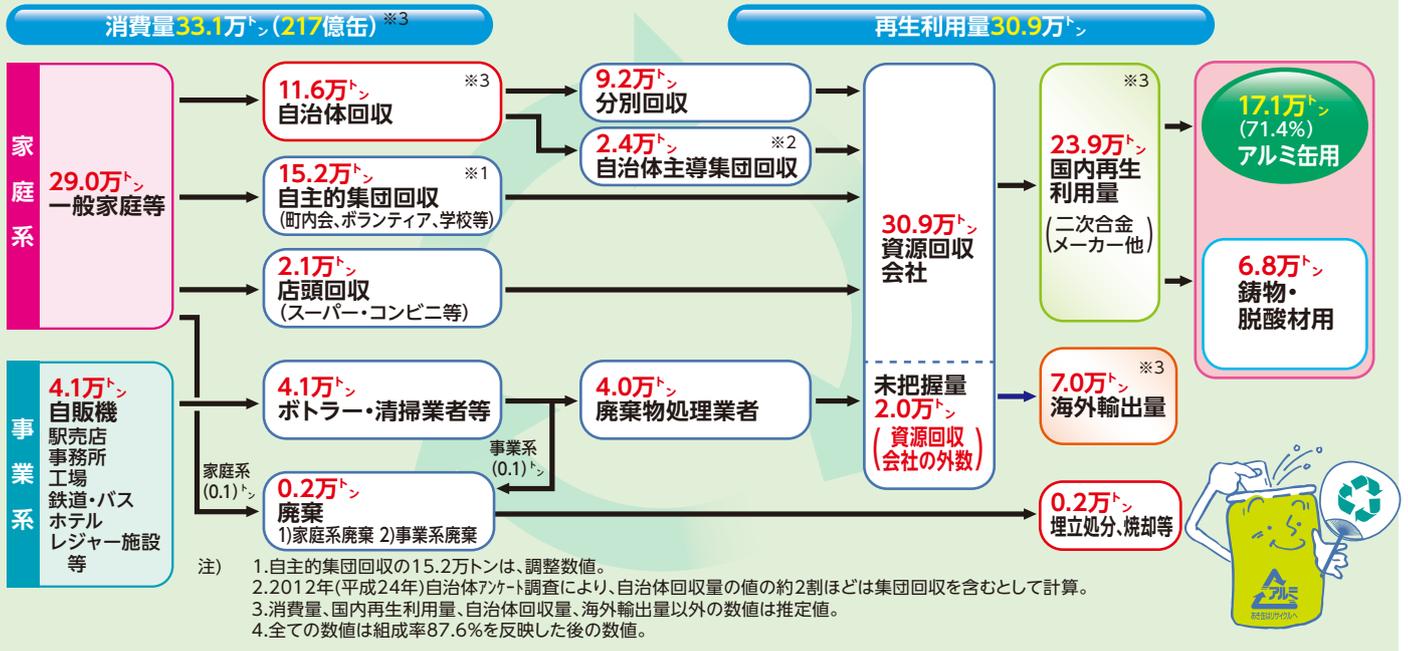
- 3R推進フォーラム、3R交流セミナー意見交換会(3都市予定)等により市民、行政との意思疎通を図ります。
- 市民リーダー育成のための支援、エコプロ展示会への参加、リサイクル冊子の作成・配布等を行います。

(3) 今後の中長期活動計画の策定

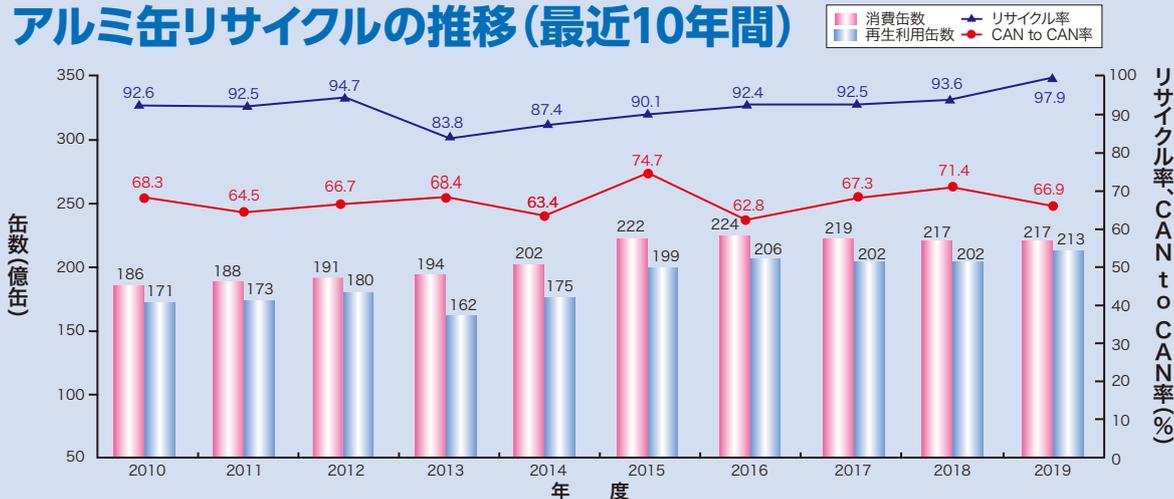
- 第4次自主行動計画に向けて、3R推進団体連絡会の事業活動計画策定に参画します。

2018(平成30)年度 アルミ缶再生利用フロー図

アルミ缶消費重量は33.1万トン。再生利用重量は30.9万トン(国内23.9万トン+輸出7.0万トン)。リサイクル率は93.6%



アルミ缶リサイクルの推移(最近10年間)



日本の飲料用アルミニウム缶需要量 (1~12月)

単位：億缶

暦年	2018年実績		2019年見込み		2020年予測		
		前年比 %		前年比 %		前年比 %	
液種別 国産缶 出荷量 A	ビール (発泡酒・新分野含む)	95.0	99.3	94.2	99.2	91.0	96.6
	ビール	39.4	111.3	44.0	111.7	47.0	106.8
	その他アルコール						
	以外の	78.2	94.8	75.7	96.8	76.0	100.4
	非アルコール						
	飲料	計	117.6	99.7	119.7	101.8	123.0
小	計	212.6	99.5	213.9	100.6	214.0	100.0
	(内ボトル缶数量)	(26.1)	88.5	(24.7)	94.6	(25.0)	101.2
	空缶輸入量 B	0.3	60.0	0.7	233.3	1.0	142.9
	実缶輸入量 C	5.3	77.9	3.8	71.7	3.8	100.0
	実缶輸出量 D (空缶輸出入含む)	1.6	100.0	1.1	68.8	1.1	100.0
	国内需要量 合計 (A+B+C-D)	216.6	98.8	217.3	100.3	217.7	100.2

参考 北米の飲料用アルミニウム缶需要

単位：億缶

暦年	2017年実績		2018年実績		2019年速報		
		前年比 %		前年比 %		前年比 %	
	アルコール飲料 (ビール他)	364.7	96.2	356.1	97.6	383.8	107.8
	ノンアルコール飲料 (清涼飲料他)	570.0	101.0	584.3	102.5	588.5	100.7
	合計	934.7	99.1	940.4	100.6	972.3	103.4

参考 世界各国のアルミ缶リサイクル率 (2020年6月末日更新)

国名	需要量(億缶)					リサイクル率(%) リサイクル率の算出方法は各国で異なる				
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
イギリス*1	98					65	68		72	
イタリア*1	22					74	70		71	
フランス*1	51					67	68		58	
ドイツ*1	36					99	99		99	
スペイン*1	63					66	62		62	
ノルウェー*1	5					95	96		98	
アメリカ*2	933	932	890	935	940	66.5	64.3	63.9	63.3	63.9
ブラジル*3	229	231				98.4	97.9	97.5	97.3	
韓国*4						78	75	76	79	
日本	202	222	224	219	217	87.4	90.1	92.4	92.5	93.6

*1 需要量: BCM (Beverage Can Makers Europe) の年次報告書による
リサイクル率: EAA (European Aluminium) のプレスリリースによる

*3 ABAL (The Brazilian Aluminum Association) のプレスリリースによる

*4 KORA (Korea Resource Circulation Service Agency) ホームページより抜粋

*2 需要量: CMI (The Can Manufacturers Institute) の年次報告書による
リサイクル率: AA (The Aluminum Association) のレポートによる

協会からのお願い

● タブは缶から外さずいっしょにリサイクル

アルミ缶のタブは環境保護のため、缶フタから離れないようにしてあります。タブはタブだけで回収するのではなく、缶に付けた状態で丸ごと回収してください。無理にタブを取るとケガをする場合もあり危険です。

● ボトル缶のキャップの取扱い

飲料用アルミボトル缶のキャップは、アルミ製です。キャップも貴重なアルミ資源です。キャップ・本体とも軽く水洗いした後、中の水分をよく切ったうえ、キャップを軽く締めて回収してください。

● アルミ缶にタバコを入れないでください

アルミ缶にタバコの吸殻を入れると、リサイクルの妨げになるだけでなく、火災の原因になる可能性があります。



編集後記

- 春先から猛威を振っているコロナも未だ出口が見えない状態になっています。今年は例年とは全く違った生活環境で普段なんともないと思っていたものが違って見えた年でもありました。
- そうは言っても今年も暑い夏がもうそこまで来ています。皆様も体調に留意されコロナに負けず、楽しい夏を過ごされることを祈念いたします。

アルミ缶リサイクルニュース第152号

発行日 令和2年7月20日

発行人 保谷 敬三

編集人 小林 裕

発行所 アルミ缶リサイクル協会